

多摩センターエリアの 「住み続けられるまちづくり」に向けた取組

多摩センターエリアは都市機能を集約することを目的に街づくりが行われ、「住み続けられるまちづくり」への様々な工夫が隠されています。

今回の謎解きを通して巡ったスポットの役割を「住み続けられるまちづくり」の視点で見よう！

Sustainable Development Goals

11 住み続けられる
まちづくりを



落合白山神社

神社の役割

昔は地域の人が集まるコミュニティの場所だったお寺や神社。
神社には、お祭りや結婚式、お葬式などの時に人々が集まって祭事を執り行っていました。
神社に集まる人と人とのつながりから助け合いの精神が生まれ、災害時にも大きな役割を担ってきました。
多摩ニュータウン開発により区画整理が行われた後も落合白山神社は地域の大切な場所としてこの場所に残りました。

落合白山神社では今でも、お祭りのご祈祷や七五三などで地域住民が集まり、つながりが大切にされている場所です。



多摩センター駅

駅の役割

駅は地域に住む住人にとって重要な場所。誰もが安全で安心に利用できるように多くの工夫がみられるスポットです。

3路線が交わる多摩センター駅には、障がいがある方のためのエレベーターや点字案内に加えて駅員さんのサポート、おむつ交換台を備えた多目的トイレ、訪れる人々にもわかりやすい案内表示など多数の工夫が見られます。また、商業施設が集まり、ニュータウンとして暮らしやすい町を目指し設計されてきました。



コロシア多摩センター

ショッピングセンターの役割

多摩センター駅南口に出てパルテノン大通り奥右手に見える7階建ての建物が「コロシア多摩センター」です。住民にとって、生活必需品が調達できるショッピングセンターは、病院などの公共施設以外で最も利用する場所と言えます。

様々な商業施設が揃う多摩センターの中でも、コロシア多摩センターは生活必需品を調達できるだけでなく、一般の人でも利用可能な多目的ホール、コワーキングスペースとして利用可能なカフェ、地場野菜を中心に提供するレストランなど地域・コミュニティとのつながりを感じられる場所になっています。



多摩中央公園

公園の役割

地域住民の憩いの場としての役割を担っている公園ですが、大きな災害が起きた際には避難場所となつて防災の役割も担っています。

多摩市は市の面積に占める都市公園の比率が都内でトップクラス。その中でも自然と都市が融合した町「多摩センター」のシンボリック存在の多摩中央公園は、豊かな森林に囲まれ、週末には多くの家族連れがレジャーシートを敷きつろいだりして賑わっています。遊具が少なく、大きな池や芝生がとても広いのがこの公園の特徴です。



パルテノン多摩 こどもひろばOLIVE

公共施設の役割

地域には住民が利用できる公民館や児童養護施設などの公共施設が多数あります。公共施設は住民にとって情報収集の場であり、様々な住民サービスを受けることができる重要な場所です。

パルテノン多摩では、無料で利用できる子育てサポートの拠点として、こどもひろばOLIVEがあります。木材（多摩産材）で造られた遊具で遊べるスペースがある他、子育てマネージャーへの悩みなどの相談や一時保育（有料）等のサービスを提供しています。子育て世代のコミュニティづくりにもつながっています。

